

カードゲーム「カタルタ」を用いた コミュニケーション活動に関する実践研究

森原 規行 MORIHARA Noriyuki : 京都精華大学デザイン学部

熊野 森人 KUMANO Morihito : 京都精華大学デザイン学部

福元 和人 FUKUMOTO Kazuto : メドラボ代表

熊野 陽人 KUMANO Akihito : 東海大学体育学部

I. はじめに

「カタルタ (KATARUTA)」は、発想力を高め、コミュニケーションを豊かにするカードゲーム (兼 iPhone 用アプリ) である¹。発見を促し、視点を変えるスキルを育てることを目的として開発された。カタルタはトランプと同じ枚数の 54 枚のカードに書かれた接続詞や副詞「実は」「ちなみに」「しかし」「残念ながら」等々のリンクワードを使って遊ぶ、つまり言葉遊びのゲームであり、参加者はそれらの言葉を上手く使って、自己紹介やストーリー作り、テーマに沿った話を進めるというものである。カタルタは遊びを通して人の本音や核心に迫り、それによって人と人との距離を縮めることを可能にするとされている。人は他人に何かを話すとき、頭の中で一度文章を組み立てて整理してから話し出す。その際、言う必要がないと判断された多くの本音は語られずに終わる。しかし、カタルタでは話すべき文章の構成をカードによって半ば強制的に決められてしまうため、カードによって導かれる文章を短時間で必死に組み立てようとし、その際に本音を吐露する。いわば、本能に近い反射を利用したゲームで、初対面同士、友人同士での遊びはもちろん、企業研修、自己紹介、ブレインストーミング (Brainstorming)、アイスブレイク (Ice Break) などビジネス面でも活用されており、高い効果を発揮することが期待されている。

近年、芸術系・文化系の学生のいずれにおいても、友達や教員とのコミュニケーション、課題制作、グループワークをはじめ、論文執筆や作品制作にあたって学生が直面するさまざまなコミュニケーションに関する問題が浮き彫りにされるなか、本学も例外なくこのような問題に

直面していると言える。大学生など若い年代の人たちのコミュニケーション・スキルの低下は既に問題視されている²³。その為、本学における教育活動の質を高める、あるいは社会に通用する人間を輩出するために、学生のコミュニケーション能力を高めるような取り組みを行い、その成果を社会へと発信することは大変有意義な事であると考ええる。

そこで我々は、自分の考えを言葉に表すことが苦手な学生や発想のバリエーションに乏しい学生、うまく着想ができない学生の思考およびコミュニケーションのスキルを上達させることを目的とした「カタルタ」を応用、カスタマイズするとともに、とくに芸術系の学生を対象に、その有効な活用法を開発・提言することとした。まずパイロット・スタディとして、本論文は、カタルタの認知度、使用した際の感想などの基礎的データを報告する。

II. 方法

1. 被験者

本研究の被験者は、K大学に在籍する男子学生10名、女子学生50名の計60名（人文学部2名、芸術学部14名、デザイン学部14名、マンガ学部27名、ポピュラーカルチャー学部3名、平均年齢 18.3 ± 3.6 歳）であった。被験者には、本研究の目的や調査内容について事前に説明し、研究参加の同意を得た。

2. データ収集

データ収集に際し、K大学5学部に被験者を募り、60名の希望学生が本研究へ参加した。被験者にはアンケートWebサイト (<http://kataruta.shinuchi.com/>) を用いて、全10項目の質問（表1）に対して回答させた（図1～4）。回答する時期、回答に要する時間は被験者の任意とした。

3. 統計処理

質問項目4～10において、回答の割合を比較するためにX²検定を用いた。有意水準は危険率5%とした。

表1 全質問項目

番号	質問	発展的質問
1	学部名を次からお選び下さい。	
2	年齢をお答え下さい。	
3	性別をお選び下さい。	
4	「カタルト」を知っていましたか？	
		いつカタルトを知りましたか？
		どこでカタルトを知りましたか？
5	カタルトを使用したことがありますか？	
		いつカタルトを使用しましたか？
		どこでカタルトを使用しましたか？
6	カタルトを使用しないで考えた自己紹介と使用した後の自己紹介、どちらのほうが好きでしょうか？	
		それはどうしてでしょうか？理由を思いつくまま書いてください。
7	カタルトを使用した答えに関して、自身の考え方の癖や、伝え方の特徴、忘れていた記憶などの発見はありましたか？	
		どのような内容だったでしょうか？
8	カタルトを使用した答えに関して、自分の中で、新しい表現はありましたか？	
		どのような内容だったでしょうか？
9	初めて人に明かす内容がありましたか？	
		どのような内容だったでしょうか？
10	そもそも、あなたは自己紹介が得意ですか？不得意ですか？	
		その理由を具体的にお書きください。

図1 Web アンケートの流れ①



図2 Web アンケートの流れ②

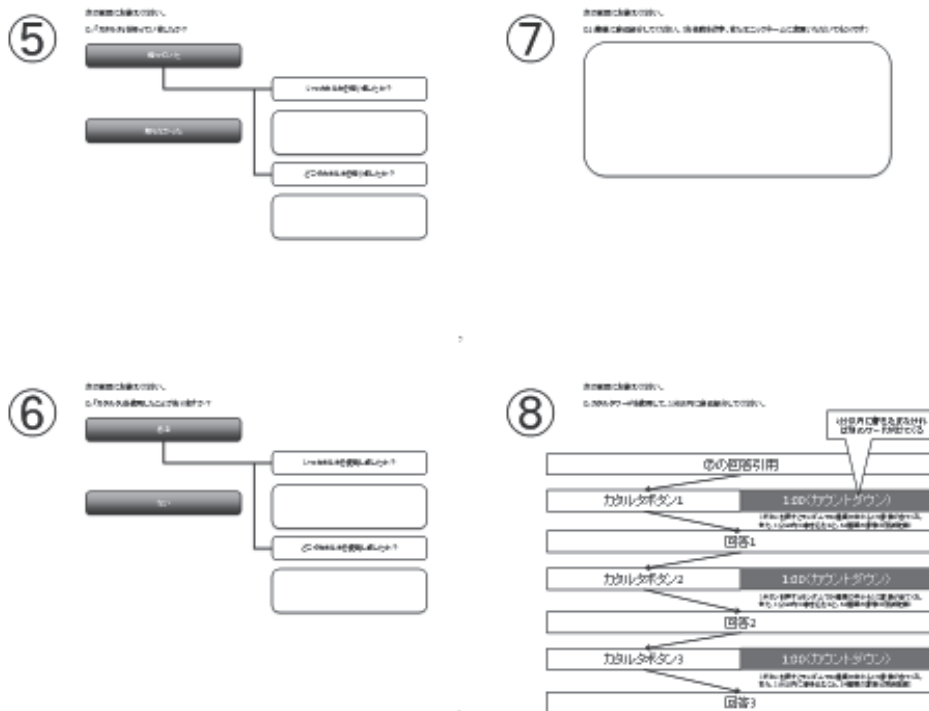


図3 Web アンケートの流れ③

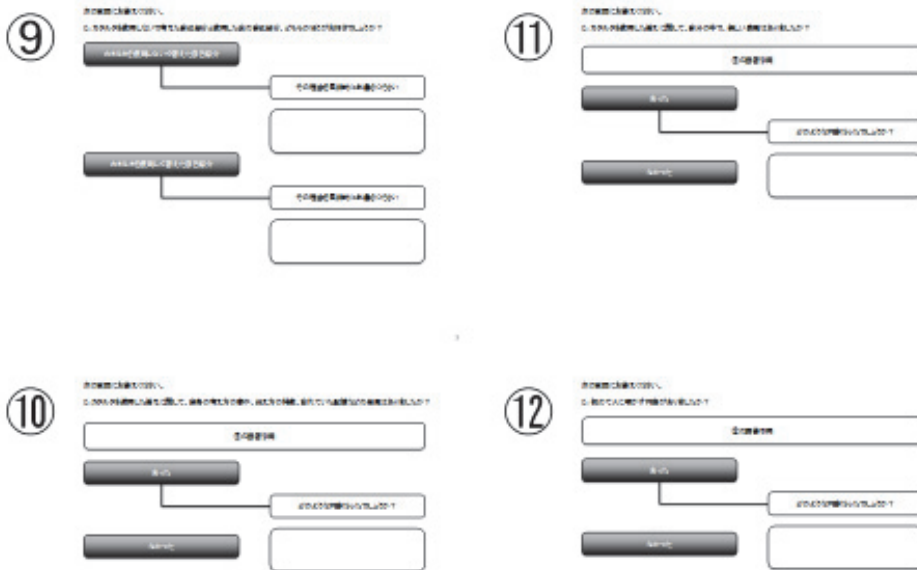


図4 Web アンケートの流れ④



Ⅲ. 結果

問4. 「カタルタを知っていましたか？」の回答を比較した結果、「知らなかった」の回答が有意に多かった(表2)。「知っていた」と回答した者のうち、「いつ」「どこで」知ったかに関する回答は表2の通りであった。問5. 「カタルタを使用したことがありますか？」の回答を比較した結果、「ない」の回答が有意に多かった(表3)。「ある」と回答した者のうち、「いつ」「どこで」知ったかに関する回答は表3の通りであった。問6. 「カタルタを使用しないで考えた自己紹介とを使用した後の自己紹介、どちらのほうがお好きでしょうか？」の回答を比較した

表2 問4の結果

問4. 「カタルト」を知っていましたか？

	知っていた	知らなかった	合計	p
人数(人)	5	55	60	0.000
割合(%)	8.3	91.7	100	-

問4-1. いつカタルトを知りましたか？

問4-2. どこでカタルトを知りましたか？

主な回答

いつ	どこで
一昨年	K大学のオープンキャンパス
2年くらいの時に授業で知ったような気がします	授業で
去年	K大学
去年の10月	M先生から伺いました
去年	授業

表3 問5の結果

問5. カタルトを使用したことがありますか？

	ある	ない	合計	p
人数(人)	5	55	60	0.000
割合(%)	8.3	91.7	100	-

問5-1. いつカタルトを使用しましたか？

問5-2. どこでカタルトを使用しましたか？

主な回答

いつ	どこで
一昨年	精華大学のオープンキャンパス
授業とオープンキャンパス	学校
去年	京都精華大学
去年の10月です	京都精華大学で
去年	授業

表4-1 問6の結果

問6. カタルタを使用しないで考えた自己紹介と使用した後の自己紹介、どちらのほうが好きでしょうか？

	使用した	使用しない	合計	p
人数(人)	41	18	59	0.003
割合(%)	69.5	30.5	100	-

問6-1. それはどうしてでしょうか？理由を思いつまま書いてください。

<使用した> 主な回答

相手の事について「なぜそうなのか」を深く知る事ができる。
いい感じにかけたので
伝えるために次に考える事が提示されていたので
内容が濃い
偶然発生した接続詞によって自分の意図せずより詳しく自己紹介が出来たので楽しかったし楽でした
その人の個人的な情報がより詳しく知る事ができたように感じたから
情報がたくさんあるので想像しやすく分かりやすいし、たくさん要素を出すことでよくある答えでも他の人と同じ内容ではなくなるから。
リアルな自分の現状を見直すことができたと感じた
文章量が増えたのに分かりやすいから
いつも書かないような自己紹介文まで引き出された点。話の幅が増えた点。
詳しいのが話せるから
面白い感じに仕上がったから
頭の底の方にあったことまで引っ張り出されたから
自分があまり使っていない言葉などが出てくるので他の形で表現出来るから
ふだんする自己紹介で何を話すか、ということあまり考えないので、指定されたワードで自己紹介をするのが楽しかった。
どういった場で話すのかもよると思いますが、カタルタを使用すると話題に困らなくていいと思います。
楽しみながら自己紹介ができたと思いました。
相手との会話が弾みやすそうに思えたから
多いから
なかなか意外な接続詞が出てきて面白かったです
カタルタなしの自己紹介では伝えることのできなかつた情報を含むことができたから。
カタルタを使用することによって情報量が増え、どんな人間なのかよりわかりやすくなったから。
具体的に話がされている。話に厚みが出た気がする。
明るい感じがした。
カタルタなしの自己紹介では伝えることのできなかつた情報を含むことができたから。
自分では思いつかない言葉でつなげられたから
結果として生まれた文章が好きというより自分が考えていない要素が引き出されるという過程が楽しかったので
具体的だから。
自分のことがよくでていて好きです
ユーモアがあって面白かったからです。
自分のカタルタの使い方が下手なのでおかしくなってしまいましたが、上手く使えば自分のことをうまく表現することができるなと思ったからです
時間内に送信した答えのはちゃめちやさが面白かったので…
初対面で言うつもりが無い事をカードが出た事によって周りに伝えられて、そこで同じ事を思っている人を見つけられやすくなりそうだから。
細かく説明できるから
気持ちが伝えられた。
使用前の淡白なものよりも中身が充実している。親しみやすい。
時間に焦りながら書いたとはいえ、最初よりも好きなことを強く推している感じができたから
細かいところまで伝わるから
より具体的に私が伝わっていると思うからです。

表 4-2 問 6 の結果

<使用しない> 主な回答

自己紹介は短い方が好きだから
今まで思い付かない話方だった為。
焦りすぎて、文脈がもとの自己紹介と関連性がなくなってしまったからです。
時間制限に急かされてなんとも言えないでなくなった。
日本語的に不自然です。無理やり言われている感じがしてあまりよくない
話が少し不自然になってしまったので、単純な自己紹介の方がわかりやすいです。
時間と回答に縛られていたので、文章になる言葉が書けなかった。
カタルタを使うと自己紹介にならない
自分の思っていた接続語がなくて文章が片言になった
必要のないことまで書いているため。
時間をカウントされながら書くと思わず焦ってしまって、思いつくまま文章を書いて支離滅裂になってしまったから。
ゲームとしてはこれでもアリだし楽しいとは思いますが、話がよくわからない方向に持って行かれてしまい、自己紹介としてはちょっと不思議な方向へすら行ってしまったからです。
単純でいいから
時間が制限されていてやりにくかったです
ちょっと最後がよく分からなくなったから。
シンプル

表 5 問 7 の結果

問7. カタルタを使用した答えに関して、自身の考え方の癖や、伝え方の特徴、忘れていた記憶などの発見はありましたか？

	あった	なかった	合計	ρ
人数(人)	25	35	60	0.197
割合(%)	41.7	58.3	100	-

問7-1. どのような内容だったでしょうか？

<あった> 主な回答

どんなに制限時間のついた回答でも丁寧語を使いなんというか馬鹿に丁寧でキモいです
ワードが出て時間制限に間に合わず嘘をついてしまった事
自分は怠惰である。
逆の発想(とはいえ)
人描くのが好き
オチがない
「どういう風に話を終わらせようか」と考えていたのですが、「どういった話で繋げようか」と考えるようになったと感じます。
キュウリが好きということです。
箇条書きのような文章を書きがち。文が短調になりやすい。
文章をすぐに終わらせる癖。続けようとしなない。
箇条書きのような文章を書きがち。文が短調になりやすい。
なんらかの形式や制限を与えられるのが好きだと言うことを発見しました
志を再確認できた。
焦ると同じことを説明しだす
自分の考えの根本が思い出せた。
そんな言い回しを使ったことがなかったので新しい発見でした。
ギャグを極めたいというところ
そもそもにおいて生物学を好きになった理由。
自分の話し方ではあまり接続詞を使っていないことが分かりました。ときどき主語すら抜かして話しているので、分かり易い話し方をしなくてはいけない場合それらに気をつけたほうが良いと思いました。
単調に思いついたままのことを言っている
詳しさが出た。
シンプルに欲しいものを素直に答える
ふざけてる

結果 4-1、4-2の通りであった。問7.「カタルタを使用した答えに関して、自身の考え方の癖や、伝え方の特徴、忘れていた記憶などの発見はありましたか？」の回答を比較した結果、「あった」と「なかった」の回答割合に有意な差はみられなかった(表5)。「あった」と回答した場合の内容については表5の通りであった。問8.「カタルタを使用した答えに関して、自分の中で、新しい表現はありましたか？」の回答を比較した結果、「あった」と「なかった」の回答割合に有意な差はみられなかった(表6)。「あった」と回答した場合の内容については表6の通りであった。問9.「初めて人に明かす内容がありましたか？」の回答を比較した結果、「なかった」の回答が有意に多かった(表7)。「あった」と回答した場合の内容については表7の通りであった。問10.「そもそも、あなたは自己紹介が得意ですか？不得意ですか？」の回答を比較した結果、「不得意」の回答が有意に多かった(表8-1)。それぞれの回答の理由については表8-1、8-2の通りであった。

表6 問8の結果

問8-1. どのような内容だったでしょうか？

<あった> 主な回答

好きと嫌いをはっきり紹介すること
普段使わないような言葉が出てきた。
最近の出来事を入れたこと。
普段接続詞を使おうという意識があまりないので、使うことによって明確に伝わる
キスマイのコンサートに行くことを伝えている
とっさのうそでもつじつまの合う解答ができた事
メインの自己紹介と違って、誰でも話せる全く関係ない日常の会話を出すことができたと思います。
しかしとかそういう言葉使わない。
そのくせというつなぎ
狂気な内容になった
言葉の繋げ方。

表7 問9の結果

問9-1. どのような内容だったでしょうか？

<あった> 主な回答

皿洗いが得意なこと
キスマイのコンサートに行くこと
得意なことを言った。
今の思い。
ギャグを極めたいというところ
習慣が出てきた。
「1人」で映画鑑賞するのが嫌いではない。という事。
本を読んでいるときだけ集中力がある。
そもそも自己紹介で自分のことを人にさらさないのがほとんどが初めて人に明かす内容ばかりでした
自分しか知らないようなことや、あまり表に出したくないようなことです
たまには電車を使いたいということ

表8-1 問10の結果

問10-1. その理由を具体的にお書きください。

<得意> 主な回答

自分のことを話すのはそこそこ好きです
自分の好きなものとかを伝えればいいだけだから
どちらとも言えないです。
得意とも思っていないけれど、自分の好きな事を相手に伝えて、ひとつでも好きな物が一緒なら、そこから話を広げられるから。その事を考えたらひとつでも多く自分の事を知ってもらおうと思うから、不得意では無いと思う。
自己分析も喋ることも割と得意な方なので、自己紹介も得意な方だと思っています。
そんなに緊張することがないので
いつも自分はどんな立場であるか考えているから
どちらともいえない。
どちらともいえない。
自分のことを大学に入ってたくさんプレゼンテーションをして少しずつわかってきたと思うから得意です。
はっきりと得意とは言えませんが、人が注目してくれる要素を入れようと話しています。
自分のいいところ、悪いところは把握していますし、人と話すのや大勢の前で発表することは苦手ではありません。

表 8-2 問 10 の結果

<不得意> 主な回答

どちらでもないと思います。
人前で自分のことを話すのが苦手。何を話せばいいかわからない。
どこまで紹介したらいいのかわからない
「イラスト」や「マンガ」というくりをどこからどこまで話せばいいのかわからないからです。
まとめられない。うまく伝えられない。
一番に言いたいことがありすぎて迷ってしまって単純なものになる
基本的に、人見知りか激しくて思うように言葉を紡ぐことができない
言いたいことを言いたいまま相手に伝えることが苦手
自分をよくわかっていない
思っていることをまとめて喋ることが下手でいつもグダグダになるか、普通すぎて面白みのないことを喋ってしまうから。
紹介する機会がないから
いざ紹介しようと思うと上がってしまうので
特に言うことがないから
どう表現したら一番ベストなのかわからない
即座に自分の言いたいことを脳内でうまくまとめることが苦手なため。
人前が、苦手
自分をあまり主張したくないと思っているので。
自分のことをよくわかってないから
自分のことすらイマイチよくわかってないから
相手に伝えるような自分のことがそんなに見当たらないから。
自分のことを話すのが好きではないため。
自分の考えを頭の中で纏めきれず意味不明な話になってしまうから。
相手に伝えるような自分のことがそんなに見当たらないから。
緊張する、自分の何を伝えるべきかわかってない、言葉にするのが苦手
言いたいことがありすぎて長くなるから
客観的に自分を見るということあまりしたことがないからです
この人にどこまで喋ったらいいのかなど、いろいろと消極的な考えになり、思っていることの3分の1程度しか喋れないことが多いからです。
なにをどこまで述べればいいのかかわからない
人前で上がってしまう
自分を人に紹介することに苦手意識を感じるからです。
自分本位すぎる気がして恥ずかしいからです
話すのが得意ではないからです
その時の表現だけで自分を紹介するのは困難と感ぜられるからです。
自分自身でもよくわかっていない。
要点をまとめて言えないのとシンプルにざっくり言いすぎて面白くないと思われるかもしれないから。
しゃべるのが好きじゃない
テンプレがないと何を言えばいいかわからなかったから
キモくなるから
話しておかなければならない情報を伝えるのが苦手だから
自分の伝えたいことをうまく言葉にできない。
人前で自己紹介するのが億劫だから。
何をどこまで言えばいいか、わからない。
どうすれば自分に興味を持ってもらえるのか、わからないから。
何を伝えればいいのかかわからない。人前で話すのが少し苦手。
うまく話をまとめられずいつもめっちゃくちゃな内容になってしまうから
情報を話すぎたり、自分の一番伝えたいことを差し置いて他のことから話してしまうこと

IV. 考察

まず、カタルタというツールを本研究対象がどの程度認知していたかという点、「カタルタを知らなかった」、「カタルタを使用したことがない」という回答が有意に多く、大半が実験前にはカタルタの存在を認知していなかった。一方で、「カタルタを用いた自己紹介の方が好き」という回答が有意に多く、カタルタは予備知識が無い全く初めて使用する人に対して、ポジティブな効果がある可能性が示された。つまり、カタルタの効果を得るために何度かカタルタを使用して経験値を積む必要が必ずしもあるわけではなく、対象者が初めて使用する企業研修、自己紹介、ブレインストーミング、アイスブレイクにも有効であると推察された。

カタルタを使用した自己紹介の方が好きという意見が約70%を占めた反面、訳30%は文章としての不正確さや、自己の吐露が不快に感じたという理由のもと、カタルタを使用しない方がよかったと回答した。しかしながら、会話は通常2人以上で行うものであり、その際は文章として正確なものでなくとも意思疎通ができたり、自己開示が思わぬ会話の方向性や繋がりを生む場合が多々ある。今回のアンケート調査は1人で回答する形式で行ったため、実際に2人でカタルタを使用し会話をした後のアンケート結果では、今回の結果と異なる傾向を示す可能性も考えられた。

「カタルタを使用した答えに関して、自身の考え方の癖や、伝え方の特徴、忘れていた記憶などの発見はありましたか？」という問いの回答では、「あった」と「なかった」の回答割合に有意な差はみられなかった。また、「カタルタを使用した答えに関して、自分の中で、新しい表現はありましたか？」という問いの回答では、「あった」と「なかった」の回答割合に有意な差はみられなかった。さらに、「カタルタを使用した答えに関して、自分の中で、新しい表現はありましたか？」という問いの回答では、「あった」と「なかった」の回答割合に有意な差はみられなかった。これらの結果から、カタルタを使用した際に起こる自身の変化、つまり新たな自分に気づくといった「自己発見」には個人差が大きく存在する可能性が示された。一方、見方を変えると、新たな自己の発見ではなく、既に自分が形成している自分のイメージや、普段から使う言葉・表現を用いているだけであるが、ポジティブな自己紹介・自己開示を促すことができたと考えられる。同様に、「初めて人に明かす内容がありましたか？」の回答を比較した結果、「なかった」の回答が有意に多かったことから、何か特別なことを開示したり獲得したりしてコミュニケーションを行ったのではなく、既に自分の中に存在する言葉や事柄を使っただけのコミュニケーション活動が行われていたと考えられる。そのため、コミュニケーションに対して高い壁を感じるような人に対して、コミュニケーションとは特別な事ではなく平易なことで実行できるとの考え方をカタルタは提供出来得る可能性がある。最後の問いで、

自己紹介が不得意であると回答した割合が有意に高く、自分の思いをどう表現したらいいのか分からないというような理由が多かった。そのため、前述したようなコミュニケーションとは特別な事ではなく平易なことで成立し、自分の中に既にある言葉や事柄を使って会話すれば良いというパラダイムをカタルタによって提供することができれば、今後、コミュニケーション能力向上の方策の一助となるのではないだろうか。

V. まとめ

2005 本研究の目的は、カタルタの認知度、使用した際の感想などの基礎的データを収集することであった。検討の結果、以下のことが明らかとなった。

1. 「カタルタを知らなかった」、「カタルタを使用したことがない」という回答が有意に多く、大半が実験前にはカタルタの存在を認知していなかった。
2. 「カタルタを用いた自己紹介の方が好き」という回答が有意に多く、カタルタは予備知識が無い全く初めて使用する人に対して、ポジティブな効果がある可能性が示された。
3. カタルタを使用した自己紹介の方が好きという意見が約 70%を占めた。
4. 「カタルタを使用した答えに関して、自身の考え方の癖や、伝え方の特徴、忘れていた記憶などの発見はありましたか？」という問いの回答では、「あった」と「なかった」の回答割合に有意な差はみられなかった。また、「カタルタを使用した答えに関して、自分の中で、新しい表現はありましたか？」という問いの回答では、「あった」と「なかった」の回答割合に有意な差はみられなかった。さらに、「カタルタを使用した答えに関して、自分の中で、新しい表現はありましたか？」という問いの回答では、「あった」と「なかった」の回答割合に有意な差はみられなかった。
5. 「初めて人に明かす内容がありましたか？」の回答を比較した結果、「なかった」の回答が有意に多かった。
6. 自己紹介が不得意であると回答した割合が有意に高かった。

本研究はパイロット・スタディとして基礎データを収集、報告したものである。今後、さらに研究対象を拡大してデータを蓄積し、カタルタ使用者のコミュニケーション能力の変化を評価するような縦断的研究などを行う必要がある。

参考文献

1. メドラボ (2013) カタルタ Web サイト (<http://www.kataruta.com/>).
2. 後藤学・大坊郁夫 (2003) 大学生はどんな対人場面を苦手とし、得意とするのか? - コミュニケー

ション場面に関する自由記述と社会的スキルとの関連－. 対人社会心理学研究, 3 : 57-63.

3. 飯塚一裕 (2010) 大学生のコミュニケーション意識について－テキストマイニングによる分析－. 愛知教育大学研究報告, 59 (教育科学編) : 49-53.